

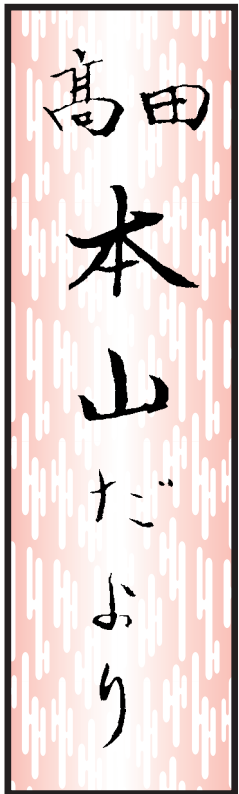


専修寺北海道別院

輪番 秦浄憲

専修寺北海道別院は、明治二十五年に札幌市の中心地、現中央区の豊平川とテレビ塔の中間地、南一條東三丁目に建立されました。

明治時代、政府の北海道開拓政策によって東北や北陸から多くの人たちが北海道にわたりました。福井県から約二万七千戸にのぼる人たちが移住され



発行所  
真宗高田派宗務院内  
三重県津市一身田町2819  
電話 059-232-4171  
FAX 059-232-1414  
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 34,000部



ました。また人数ははつきりしません。三重県からも多くの方がわたられました。その中には高田派のご門徒も多く、それらの人々のために、福井市鮎川町願生寺住職出見法泉師は、北海道開教の山命によって説教所を創設され、北の大地で風雪にたえながら、仏教興隆のため布教活動を始めたのです。

明治三十三年に南四條東四丁目に約三百三十坪の境内地を、高徳な方から寄進していただき、真宗高田派専修寺別院として寺号公称認可されて別院の基礎が確立されました。山川眞源(津市善徳寺住職)在職のとき、木造入母屋造り一〇坪の本堂が完成。それにもなつて宮殿須弥壇等も新調されました。

しかし九十年の時が流れて、建物の老化が甚だしく、また車社会の到来によって広い駐車場も必要となつて、二代輪番島義導師(北海道岩内郡聖賢寺住職)のもと檀信徒一丸となつて開基百年記念事業として、本堂移転再建することになりました。幸い地主石田国夫氏のご協力により、市内清田区平岡三條三丁目、境内地三千坪を取得することができ、平成元年から四年をかけて佛閣諸堂が完成されました。山門は唐破造り。本堂は間口・奥行がともに二一、六メートル、高さ十九メ

ートルの唐破風入母屋造り、屋根は銅板葺き、内装は極彩色に彩られています。本堂を中心に左側には三百七坪の客殿と庫裡、右側には二百九十坪の納骨堂、会館ができました。山門の左には鐘樓堂を配置し、客殿、布教師部屋からの庭園の眺めは、素晴らしくおちつきをただよわせています。

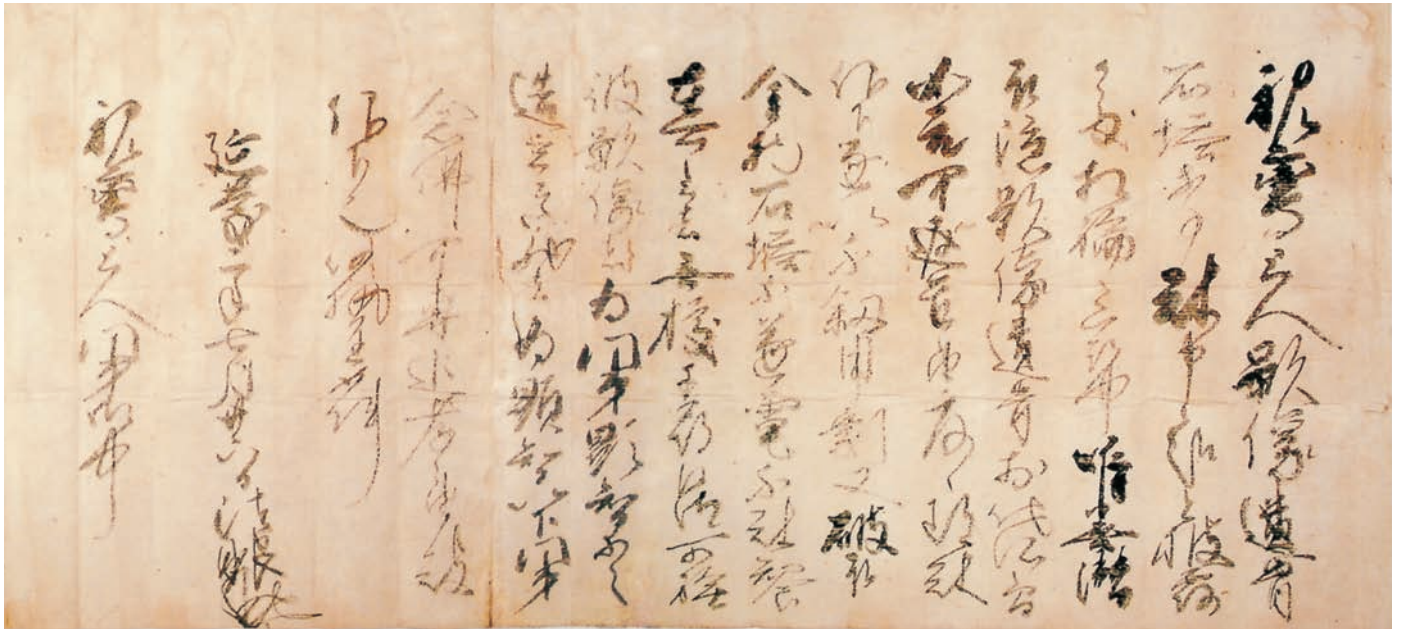
かくして平成四年十月三日には、報恩講・佛閣建立落慶大法会・開教百年記念物故者追弔法会を、ご本山より法主猊下、法嗣殿、お裏方様のご来光を戴き、道内末寺団体参拝のもと賑々しく厳修されました。これらの大事業と大法会は島義導師番と別院檀信徒の多大のご尽力の賜物でありました。

また十九代輪番江藤道基師(札幌市豊平区授法寺住職)は在職中に十数年にわたり百年記念誌の刊行のため研鑽努力をされて集大成されましたそのご功績に対しても心より誠意を表する次第であります。

また十七年に一度の一光三尊佛御開扉法要を、大正九年より平成十二年度までの間に六度も勤められたことも、歴代輪番と檀信徒のご協力があったからであります。







## 顕智上人と青蓮院門跡

《重要文化財『専修寺文書』より》

新 光晴

この書状は、この三月に国の重要文化財に指定された『専修寺文書』三百六通のうちの一通で、「青蓮院門跡御教書」といいます。今から七百年前の延慶二年（一三〇九年）の七月二十六日に、京都の青蓮院より、顕智上人をはじめ関東に在住する親鸞聖人の遺弟たちに宛てて出された書状です。門跡から直接には書状を出さないで、この見事な筆跡は、門跡の意向を伝える立場にある「法眼」という位をもった人物のものです。

内容は、顕智上人の晩年に京都で起こった親鸞聖人の墓所の管理をめぐる訴訟の顛末で、これに敗訴した聖人の孫である唯善によって聖人のお墓が壊され、聖人の木像と遺骨が持ち去られたため、その復旧を顕智上人ら関東の門弟に任せるといふ青蓮院門跡からの指示を伝えるものです。書状の末尾の宛所は「親鸞上人門弟御中」となっていますが、本文の九行目から十行目には、「…門弟顕智等之…」「…顕智以下門弟…」などと書かれていて、顕智上人が関東の門弟たちの代表として認められていたことがわかります。

また、「青蓮院」という文字が見あたりませんが、この一週間前の七月十九日に、大谷廟堂の覚如へ宛てた、同じ

事件の本願寺文書に「…青蓮院法印御坊…」という記述が残されていますので、この専修寺宛の書状の出所も明らかとなつていきます。顕智上人はこの書状から一年後の、延慶三年七月四日に示寂されますが、墓所の復興は、次に高田門徒を率いた専空上人によって引き継がれて行きます。

ところで、この京都の青蓮院は、親鸞聖人の師である法然上人の吉水時代からのつながりが深く、聖人の門弟たちもまた、顕智上人のころだけではなく、その後も青蓮院との密接な関係を保つていましたので、宝物館には、この書状のほかにも、同時代の青蓮院門跡で、書道の青蓮院流の祖として著名な尊円親王の書状をはじめ、十数点の歴代青蓮院門跡の消息などがあり、共に重要文化財に指定されています。

新しく重要文化財に指定された宝物の内容については、六月以降、毎月の第四水曜日の午後四時から五時まで、宗務院の二階にて講座を開設して紹介しています。どなたでも自由にご参加下さい。

(宝物館主幹)



矢田了章・林智康編

歎異抄の

教学史的研究

定価4200円税込

矢田了章編

『歎異抄』に問う

定価5000円税込

藤澤桂珠著

教行信証講讃

第四巻信文類(本)  
定価8925円税込

無名会同人編

仏と人 43

救いということ(その五) 梯實  
圓/難信の法 高田慈昭/念仏  
法難八〇〇年 足利孝之/我聞  
如是(二) 源義春/ある日の明  
治天皇 南部松雄/茶話と茶話  
二題 森正隆定価4100円税込

松塚豊茂著

光を聞く

人間・人間関係

人間とは関係である 人間関係  
は苦しみのもとであるとともに  
喜びのもと 苦しみを喜びに転  
ずるー仏陀の光りー

定価1890円税込

光を聞く

生・老・病・死

定価2625円税込

永田文昌堂

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入  
永田文昌堂

電話 0755-33711・9666  
FAX 0755-33711・9666  
振替 0150-23054・9033311

ご和讃のお話

金信昌樹

世世に善導いでたまひ

法照少康としめしつづ

功德蔵をひらきてぞ

諸佛の本意とげたまう

(善導大師 第二首)

佛の化身であり、その善導大師の化身と敬われた法照、小康の時代々々に念佛の教えを説き弘められたので、それをまた三世十方の諸佛が褒め称え、そして阿弥陀佛の教えが真実の教えである事を証明される、という意味で言われているのです。

派へも伝えられたものなのです。小廉法師は、生年は不明ですが、八〇五年に亡くなっておられます。始め律を学び、唯識の学僧でしたが、七八五・六年頃善導大師の教えに帰依して以後浄土教の弘教に生涯を尽くされました。『宋高僧伝』に伝える小廉法師の行実で注目されるのは、子供を始め老若男女にお念佛を弘めさせたというお話です。念佛の教えを勧めても人々は見向きもしなかつたところ、法師は子供達にお念佛を一遍称えさせるのに一文の小銭を与えていたのですが、終いには法師の姿を見ただけでお念佛を称える様になりました。それで人々は念佛を称えるだけでなく、御堂を建立し夜昼問わずに念佛し、多くの人が教えを受けに集まつたと伝えられています。又念佛を称えている小廉法師は善導大師の様に口から称えるその数ほどに阿弥陀佛が出ていた様子であったとして、その様な小廉法師に対する民衆の敬慕の念は絶えず、十世紀後半の宋時代初期まで「後善導」と呼んでその徳を偲ばれていました。

念佛往生の教えを説き広められたことを讃述されたものでした。このご和讃は、往生伝に基づいて法照禪師や小廉法師は善導大師の化身である、つまり法照禪師や小廉法師も阿弥陀佛の化身であると詠われているのです。

このご和讃は、善導大師が度々この世に出現され、ある時には法照法師としてお生まれになり、又ある時には小廉法師としてお生まれになられ、あらゆる善根功德をおさめた阿弥陀佛の真実の功德である名号つまり南無阿弥陀佛のお念佛の教えを説き弘められたので、諸佛が世に出現された真の意味を果たされたのである、というのがこの和讃の趣旨で、法照、小康の二人をして善導大師の教えを弘められたお徳を讃嘆されたものです。

諸佛の本意を遂げるとは、諸佛がこの世に出現された真意ということ。それは、『阿弥陀経』では十方の諸佛は阿弥陀佛が衆生を救う為に誓われた念佛往生の教えを称賛し証護念されていると説かれています。善導大師が阿弥陀

佛の化身であり、その善導大師の化身と敬われた法照、小康の時代々々に念佛の教えを説き弘められたので、それをまた三世十方の諸佛が褒め称え、そして阿弥陀佛の教えが真実の教えである事を証明される、という意味で言われているのです。

先の第一首は、阿弥陀佛が真如法性の覚りの世界から善導大師となつてこの世に現われ

鈴鹿市 善昌寺住職



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入(中央局区内)
電話 (075)371-0854・8181~2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

高田本山御用達

井筒法衣店

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)
(〒600-8503) 電話 (075)351-1234(代)
フリーダイヤル ☎ 0120-075-720
フリーダイヤルFAX 0120-075-490





**本寺大恩会**  
三月二十八日～三十日  
大恩会の団体参詣に参加して

中川和則

今回、本寺の大恩会に本山の団体参詣の一団として檀家十二名と参加しました。

私が初めて本寺を訪れたのは、十四年前の「寺族青年の集い」が本寺で開催された時でした。その時の資料(群萌)を改めて手に

している。すると夜、津をバスで出発し、翌朝東京の代々木競技場で朝食を食べた事がなつかしく思い出される。平松先生が大宮からバスに乗車され、真仏報恩塔・称名寺(結城)・三谷草庵・般舟石・本寺と参詣し、その夜本寺の庫裡で宿泊したことは貴重な体験であった。

今回私にとって三回目の本寺への団体参詣もバスでしたが、高速道路の整備のおかげで朝出発し、桜の満開の東京を車窓から見ながら夕方に旅館に到着、二日目に本寺に参詣しました。本寺もずいぶん整備されたようで、一番驚いたのは本寺の御廟への参道で、以前はうっそうと生い茂っていた木々に囲まれていたが、片側の木々がなくなり参道が明るくなっていました。涅槃像の安置してあった宝庫がお堂形式の建造物になっているのも驚きでした。御影堂・如来堂も修復されていましたし、三谷草庵も修復されていました。

初めて訪れた時、「ご法嗣様、当時の輪番様が「真宗のふるさと」と表現されていた古き良き時代の本寺の雰囲気にも大変感動したことを思い出しました。修復されてきれいになった本寺をよかったですと思う気持ちとすこしさびしい気持ちとが交差している。

しかし、整備された本寺にも独特の雰囲気は残っており、聖人の創建されたと言われる本寺が「真宗のふるさと」という表現に今も私には変わらない感動を与えてくれる。

(津市 妙華寺住職)



清掃奉仕ありがとうございました  
平成二十年  
三月 迎接寺  
四月 願證寺 眞基寺 常教寺  
五月 常念寺

**ご法事のご会食 ご予約承り中**

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)  
**本山会席**



人気商品 高田本山流 **精進料理**

各種献立よりお選びいただけます。  
◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせご注文は 高田本山 電話 059-232-6079

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079



高田本山御用達  
三重県仏教会御推薦

石碑  
記念碑  
燈籠



高級御影石専門店

**御影石材(株)**

(石に御用の方は) イシニキョオ  
☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)  
☎059-224-1700(代)



**本山大恩会**  
**四月十八日〜二十日**  
**大恩会 盛大に厳修される**

高藤英光

さる四月十八日より二十日までの三日間、真仏・顕智両上人の遺徳を偲び、本山境内内外において、お七夜をも上回るにぎやかさの中、大恩会が執行された。

本山と地元自治体、そして行政が一体となつて、一身田のキャッチフレーズ「ほつとするに一身田」を体言化し、「もう一度お参りしたいな」と参詣者に思ってもらえる法要を心がけ、一年前からさまざま企画を計画推進してきた。

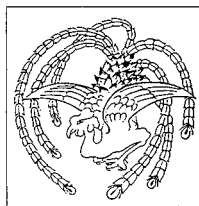
両上人坐像の特別公開をはじめとする様々な取り組みは周知の通りだが、本山が、自治体がそれぞれの立場で共に手を取り合つて作り上げたこの法要は、開山聖人のご遠忌に向けた新しい高田本山の、そして各一般寺院の今後の一つの方向を示すものになつたのではないかと考える。



**第82回仏教文化講座**  
**会場 宗務院2階第1会議室**

**8月1日(金)〜5日(火)**  
**午前9時〜正午**  
**(初日のみ9時30分より開会式)**

月日	講師	講題
8/1(金)	法嗣殿御親講	
8/2(土)	法政大学教授 田中 優子 先生	「江戸時代の庶民と信仰」
8/3(日)	愛知学院大学教授 立川 武蔵 先生	「仏陀のイメージの変化 —インド、ネパール、チベットの場合—」
8/4(月)	龍谷大学教授 内藤 知康 先生	「往生浄土の教え」
8/5(火)	元千代田女学園中学・高等学校長 医事評論家 西來 武治 先生	「臨床仏教学の提言 —長生きしてどうする(84歳の私)—」



仏壇・仏具  
**ぬし与**

ホーオーが目印!

六代目 **(株)ぬし与仏壇店**

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店

**緑と共に75年**

三重県知事免許認可  
 (一級造園技能士) 造園・庭園管理

**山本造園**

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453

リレー法話  
死は師なり

白井融光

この二年ほど前から、死は師なり という言葉が響いてきて、私から離れません。

ずっと以前になりますが、

ある僧侶の方が書かれた本の中にあった言葉のような気がします。この言葉は、語呂がいいし切れもあると感じ、吉川英治さんの「我以外我が師なり」という言葉といっしょにご門徒の通夜の時等にお話させていただいておりました。亡き方から声なき声をお聞かせただけだと思っただけです。

しかし、声なき声を聞いていなかったのは私の方でありましたと、気づかせていただいたのです。

それは一昨年の十月でした。前任職である父が亡くなったのです。平成十四年に住職になって以来、ご門徒の葬儀に何十回と出させていただきました。ご門徒が亡くなった知らせを受けると、出来るだけ早く行って枕経をお勤めし、準備万端整ってから通夜、そして葬儀に臨んでおりました。私は全く葬儀の準備段階を見ているのです。だから父が亡くなった時に、私は何をや

つていいのか全くわからない状態でした。それでも、組内のご住職や、総代はじめお同行さん、葬儀屋さん等のアドバースやご協力によって、無事葬儀をすませることができました。皆様には、感謝申し上げます。

となつて、この鈍感な私の前に現れて、教化していただいているのに気がつかず、亡くなつて初めて気づかせていただいた次第です。

観音勢至もろともに  
慈光世界を照曜し

有縁あることなかりけり  
休息あることなかりけり

《訳》  
観音菩薩も勢至菩薩もともに、

あわれみの光をもつてこの世を照らし輝かせて、佛法につながるすべての人々を救い取つて、少しの間も休まれることがない。

(讚阿弥陀仏偈和讃十七)

まさに、死は師なり

合掌

栃木県芳賀郡 遍照寺住職

父の死によってこの葬儀が有縁無縁の多くの方々のご協力をいただいで成り立っていると感ずることができたのです。葬儀一つがそうであるならば、私の衣食住、考え方等今生きている全てにおいて、世界中の無数のの方々のお力の上になり立っていると感ずられるようになったのです。

そうすると、お粗末な私ではあります、今を生きていることによつて、多くの方々の力になつていくことができると思えるようになりました。

仏様が父となり有縁の方々



一身田大盆おどり大会  
8月15日(金)・16日(土)  
午後7時30分～午後10時  
場所 高田本山境内

・教学院研究発表大会 10月31日(金) 一般発表者及び  
・教学院紀要(17号)の論文を募集しています。ご希望の方は、発表・論文の主旨を800字程度にまとめて、8月末までに教学院へ提出して下さい。  
教学院にて審査の上、お願いいたします。

〒514-0114 津市一身田町2819番地  
真宗高田派教学院 059-236-3088



一身田寺内町のイメージキャラクター  
しん坊  
寺内町を歩くとよく見かける「しん坊」がこのたび携帯ストラップになりました。寺内町のお店で売っています。五百円です。



親鸞聖人のご生涯⑥  
法然上人との出会い

比叡山での修行の行き詰まりの解決を求められた親鸞聖人は、六角堂の夢告に導かれて、東山吉水で念仏のみ教えを説いておられた法然上人のもとを訪ねられました。

聖人の当時の姿を後に『恵信尼文書』に次のように記されています。

「後世の助からんずる縁にあいまいらせんと、法然

上人にあいまいらせて」

「降るにも照るにも、いかなる大事にもまゐりて」と。

法然上人を訪ねられた聖人は、たくさんの参詣者とともに、それから百日の間、その教えを聞かすにおれないものを、上人の姿や言葉に感じとられていたのです。

「建仁辛酉の曆、雑行を棄てて本願に帰す」（『教行証文類』後序）と。

西暦一二〇一年、聖人二十九歳、法然上人六十九歳の時のことでした。この年に自力雑行を捨てて、本願

他力の念仏道に入れられたと記してみえます。

ただ念仏して、弥陀に助けられまゐらすべし。という一言であり、まさしく出会われたのは、その一言を人々とともに生きておられる法然上人その人でした。

ここに仏法があり、仏法に生きている人がいる。

その慶びを聖人は、『浄土高僧和讃』源空讃に

土高僧和讃 源空讃に

曠劫多生のあいだにも

出離の強縁しらざりき

本師源空いまさずば

このたび空しくすぎなまし

「久遠の昔から幾度となく生まれ変わって、この世に生を受けた間にも、煩惱の束縛から解き放つ強力な働きかけを知らずに過ごしてきた。わが師源空（法然）がおらずしては、今のこの生涯も、空しく過ぎてしまったことであろう。」

（註解国宝三帖和讃）

と和讃されています。法然上人との出会いを通



円山公園の奥にある吉水草庵跡（安養院）

して聖人が本願の念仏に遇われて以後五年間、上人のひざもとで本願の念仏が、凡夫の救われる唯一無上道であることを確信されたのであります。

（教学院第三部会）



開催決定

親鸞聖人を讃歎する集い

声明公演

真宗高田派～伝承500年の響き～

日時 平成21年4月2日（木）

会場 国立劇場大劇場



現代と仏法を考える集い

テーマ「仏法と世法」

9月8日（月）午後1時より

講師 龍谷大学名誉教授

信楽峻磨先生

会場 宗務院二階 第一会議室

### これからの本山諸法会

#### ◆ 歓喜会

八月十四日～十六日  
晨朝 午前七時より  
日中 午前十一時半より

#### ◆ 讃佛会

九月二十日～二十六日  
晨朝 午前七時より  
日中 午前十一時半より  
(二十三日は勤行後に御親教)

### これからの本山諸行事

#### ◆ 第八十二回仏教文化講座

八月一日～五日午前九時より開講  
(但し初日は九時半より開講)

御親講 法嗣殿

江戸時代の庶民と信仰  
法政大学教授 田中優子先生

仏陀のイメージの変化

―インド、ネパール、チベットの場合―  
愛知学院大学教授 立川武蔵先生

往生浄土の教え  
龍谷大学教授 内藤知康先生

臨床仏教学の提言

―長生きしてどうする(八十四歳の私)―  
元千代田女学園中学・高等学校校長  
医事評論家 西來武治先生

◆ 現代と仏法を考える集い

テーマ「仏法と世法」  
九月八日(月)午後一時より

講師 龍谷大学名誉教授  
信楽峻磨先生

会場 宗務院二階 第一会議室

◆ 法話発表会  
九月五日(金) (十時より)



### 歴史まるごと体験塾

七月二十八日～三十日

「かどめし」という食べ物をご存知ですか。「かど」とは秋刀魚の地方名で、焼いた秋刀魚の身をほぐして、炊きたてご飯に混ぜたご飯です。

三重県の海沿いの町でお祭りの日に食べる伝統料理です。いまどきの小学生に「かどめし」が受け入れられるか不安でしたが、参加した子どもたちは何杯もお代わりしていました。

他にもこんにゃくの味噌田楽、メザシと冷奴、お七夜のお非時など普段は口にするのではない素朴な食事を、子どもたちはおいしそうに食べています。これが「歴史まるごと体験塾」の魅力のひとつです。冷たい清涼飲料水を飲むことがなく、スナック菓子、ファーストフードもありません。しかし口にすると二つの料理やお菓子が手間をかけた手作りものです。

こんな三日間を過ごしてみませんか。参加対象は小学校五年生と六年生で、参加費用は、九千円です。七月四日まで申し込んでください。

参加の申し込み、お問い合わせは津市教育委員会生涯学習まで。  
TEL〇五九―一三九―一三三二

### 編集後記

間もなく暑い夏がやってきます。そこにセミの大合唱が加わるとより一層暑く感じます。

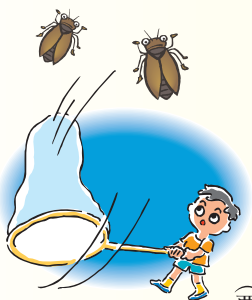
私が子どもの頃、大きくて格好よくて数が少ないクマゼミを捕まえてくると、鳴き声が聞こえると胸を躍らせて、網と虫かごを持って家を飛び出していったものです。

最近、ヒートアイランド現象の影響か、三重県ではクマゼミが異常に増えて、「シャワシャワ」という大きな声を聞くことがあたりまえになりました。子どもころならきつとたまらなく嬉しい瞬間でしょう。

しかし今の私に、クマゼミの声は暑さを助長する不快な音にしか聞こえません。

いつの間にか私は、自分勝手にクマゼミを害虫にしてしまいました。煩惱にまみれた私は、簡単に害虫や害獣、悪いやつを作ってしまう。

(栗)



### 寺院名

